

令和6年3月
駒の学び舎
世田谷区立駒沢中学校
校長 和田直樹
学校関係者評価委員会事務局

令和5年度 学校自己評価報告書

I 今年度の重点項目への取組

考察等	3つの重点項目「互いを尊重し、認め合う心」「自ら進んで学ぼうとする態度」「課題を探究。判断して行動できる力や自分の思い描く未来の実現」については、教員間で概ね共通理解を図り、取り組むことができている。しかし、駒中 Principle については、あまり生徒に浸透しておらず、形骸化していると感じている。
改善策	教務部、生活指導部、学習進路部が連携し、学活、集会、教科指導や掲示等で、駒中 Principle を意識した指導を行う。また、生徒会を中心に、駒中 Principle の見直しを図っていく。

II 地域とともに子どもを育てる教育

考察等	ホームページ、学年だより等の広報活動や情報提供では、概ね肯定的な回答が多かった。また、保護者地域連携についても肯定的な回答がほとんどであった。
改善策	引き続き学校から発信していくとともに、古い情報を削除し、常に新しい情報を伝えていく必要がある。

III 未来を担う子どもを育てる教育

1 教育課程・教育目標

考察等	教育課程の編成管理、教育事務、教育目標、学校行事等への取組は概ね肯定的である。行事準備期間の取組方や、放課後の活動時間の確保、学期初めと学期末の時間の使い方について、課題が見られる。
改善策	教務主任を中心に、生徒の活動を重視しつつも、個々の教員の負担になりすぎないようバランスのとれた教育課程編成を行っていく。

2 生活指導

考察等	全体的に肯定的な評価であるが、標準服の在り方や校則についてなど学校生活のきまりの共通理解が十分でないと感じている。
改善策	学校生活のきまりについては、教員間で生活スタンダードの共通理解を図り、足並みをそろえて指導していく。

3 学習指導

考察等	概ね肯定的な回答であった。「授業スタンダード」の「ねらい」「対話」「成果」に基づいた授業実践については、意識して取り組めていると感じている。また、「せたがや探究的な学び」を進めるため、生徒の主体的な学習活動を育むための適切な指導についても、ほとんどが肯定的であった。ICT活用、1人一台端末の活用は進んでいるものの、学校図書館の活用に課題があると感じている。
改善策	教科指導については、教科部会や校内研究の授業観察等の取組を通して、さらに充実させていく。学校図書館の活用については、年度当初に、学校図書館と図書室司書による活用研修を行い、活用方法について探る。

4 道徳・特別活動・総合的な学習の時間

考察等	特別の教科「道徳」・特別活動の計画、実施については概ね肯定的な回答が得られている。総合的な学習の時間は、問題解決する力や探究活動への主体的・協働的な取組に対し課題がある。また、教科「日本語」の授業の充実については、指導の形骸化等を理由に否定的な回答が増えていく。
改善策	特別の教科「道徳」・特別活動は、引き続き学年を中心に取組を充実させていく。総合的な学習の時間については、探究的な活動となるよう計画を見直し、生徒が主体的に取り組めるよう工夫していく。教科「日本語」については、

5 学校行事

考察等	今年度は、制限なく取り組むことができたこともあり、充実した活動となった。課題として、行事準備を充実させたいが、時間的に厳しいことがあげられる。
改善策	行事については、充実させながらも短い時間で準備できるよう工夫していく。

6 健康体力・特色ある教育・世田谷9年教育

考察等	体力向上や健康教育については、概ね肯定的な回答となった。近隣小学校との連携教育については、授業研究や小学6年生の授業体験を中心に取り組んだが、連携の仕方に工夫が必要だと感じている。
改善策	体力向上や健康教育に関するプログラムは、引き続き取り組んでいく。小中連携については、防災等共通の軸となる取組を取り入れ、一層の充実を図っていく。

7 キャリア教育・進路指導

考察等	キャリア教育・進路指導とともに、計画的な取組に対して肯定的な評価となった。一方で、その取組についての情報提供については、課題があると感じている。
改善策	引き続き、全体計画をもとに計画的に進める。キャリア教育の取組については、各学年の学年だより等を通して発信していく。

8 特別支援教育・教育相談

考察等	特別支援教育コーディネーターと教育相談主任を中心に、すまいるルーム、聞こえの教室、カウンセラー含めた教職員で特別支援教育のねらいや共通理解が図られている。
改善策	ケース会議の活用、外部機関との連携など、特別支援教育の一層の充実を図る。特に、配慮の必要な生徒に対する個別の支援の充実を重点的に行う。

9 N I E ・ E S D

考察等	N I Eについては、2学年のN I E活動を中心に取り組むことができた。ユネスコスクールの取組（E S D）については、教員間で否定的な回答が見られ、共通理解が十分でないと考えられる。
改善策	N I Eについては、引き続き各学年で進めていく。E S Dについては、総合的な学習の時間の中や各教科で取り組んでいる内容とのつながりを明確にし、さらに取組を充実させる。

10 部活動

考察等	部活動の取組については、概ね肯定的な回答を得られることができた。全体的に意欲的に取り組んでいる。しかし、教員の負担に偏りがあると感じている。
改善策	外部指導員の活用を進めるとともに、複数顧問を徹底する。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくり

1 学校運営・学校経営・学校評価

考察等	学校運営については概ね肯定的な回答が多い。昨年度、課題であったI C T活用については、改善されている。
改善策	引き続き組織的かつ計画的に学校運営を進めていく。また、会議資料等については、ペーパレス化の推進を図る。

2 教職員・研修

考察等	・働き方改革に向けて、業務の取捨選択が必要と感じている教員が多い。月1回、定時退勤日が設けられているものの、組織的な改革、個人の意識の改革が必要という意見が見られた。 ・校内研究・研修については、肯定的な回答多く、充実していると感じている。校内研修のテーマである「探究的な学びと1人一台端末の活用」については、さらなる充実を図る必要がある。
改善策	・働き方改革について、定時退勤日はこれまで同様設定し、個人の意識の変容を促す。業務については、教育課程も含め組織的に取捨選択をしていく。 ・1人一台端末ありきではなく、探究的な学び、主体的な学びの実現のために必要な取り組みを充実できるような研究を行う。

3 保健管理・安全管理

考察等	保健管理については計画的に進められており、アレルギー、熱中症対等研修は充実している。安全管理については、避難訓練、安全指導とともに計画に進めているものの、マイタイムラインの活用に課題が見られる。
改善策	保健管理については、引き続き充実を図る。防災の取組は、小中連携においても実施する。また、マイタイムラインの活用を取り入れていく。

V 教育環境の整備（施設設備、出納・経理、文書・情報管理）

考察等	施設設備については現状の中で、有効活用進めている。予算の活用については肯定的な回答が多い。また、私費会計のシステムについては、一部の教員に業務が偏っていると感じている。
改善策	私費会計については、複数体制で進める。私費会計システムについても共通理解を図る。